

1. 評価結果概要表

作成日平成 20年 9月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	3270400314		
法人名	医療法人 寿生会		
事業所名	グループホーム 寿生の家		
所在地	出雲市上塩冶町2854-3 (電話) (0853)30-1110		
評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	出雲市荻杼町274-2		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年10月24日

【情報提供票より】(20年 8月 31日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 13 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 7.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	380 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	66 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寿生病院 ・ 塩冶川田歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人であり、経験豊かな看護師と、協力病院との密な連携により、24時間適切な介護や看護を受けられることが、この事業所の一番の特長であり、利用者や家族に大きな安心を与えている。チームでターミナルケアの経験を重ね、職員の質の高さを感じられる。法人の今年度の目標の中に「フィッシュ哲学」の「仕事を楽しむ」「相手を楽しませる」「相手と向き合う」「態度を選ぶ」という4つの要素を取り入れており、利用者に対してだけでなく、職員同士がお互いを思いやる気持ちを大切に、尊重しあって生活している。職員同士が感謝しあい認め合うことで、利用者へのケアに良い影響を与えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前年の評価後、すぐに職員で話し合い、前向きに検討されている。指摘された項目は出来る限り改善している。又、評価結果は、次の運営推進会議で報告され、活発な意見交換をしている。評価結果は、玄関にファイルしてあり自由に閲覧できる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や各ユニットのリーダーを中心に、パート職員も含め全職員で話し合っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>行事報告や計画の伝達にとどまらず、その時々の問題について意見を聞いたり、ターミナルケアの事例報告や、入居者の方への関わりを研究発表するなど、内容の濃い会議になっている。1年間の生活の様子をスライドにして見てもらい、さらに事業所の理解を深める工夫をしている。参加された住民からの情報により、確実に地域活動を広げている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月、おたよりに写真を同封したり、個別にあてたコメントや次回受診日を書き添えるなどして家族へ近況を伝えている。出納帳のコピーも一緒に送り、毎月確認してもらっている。家族の親睦会を開催して毎日の生活の様子や利用者の表情をスライドで伝えるなど工夫し、家族から喜ばれている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りや保育園の運動会に参加したり、古紙回収やバス停掃除など地域の一員としての活動が増えている。近くに保育園が出来て日常的に交流を持っている。秋の収穫祭やバザーは地域で恒例となり人気があり、他の事業所からの来所もあった。ボランティア等交流も広がりがみられる。毎年恒例の花火には、近隣の方にも声をかけて一緒に楽しめるようにしたいとも考えており、さらに交流の場が広がることを期待している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの理念を踏まえた事業所独自の理念が掲げられ、一人ひとりを大切に、意思を尊重し、その人らしく暮らせるように全職員で支えていく体制が出来ている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員や訪れる方の目につくように掛け軸にして、各ユニットの玄関に飾られている。利用者に対してだけでなく、職員同士がお互いを思いやる気持ちを大切に、尊重しあって生活している。又、月だよりも理念を載せて、家族や地域の方の理解を深めるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや保育園の運動会に参加したり、古紙回収やバス停掃除など地域の一員としての活動が増えてきている。近くに保育園が出来て日常的に交流を持っている。秋の芋煮会やバザーは地域で恒例となり人気があり、他の事業所からの来所もあった。ボランティア等交流も広がりがみられる。		毎年恒例の花火には、近隣の方にも声をかけて一緒に楽しめるようにしたいとも考えており、さらに交流の場が広がることを期待している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年の評価後、すぐに職員で話し合い、前向きに検討している。指摘された項目は全て改善に努めている。又、次の運営推進会議で報告され活発な意見交換をしている。評価結果は玄関にファイルしてあり自由に閲覧できる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や計画の伝達にとどまらず、その時々の問題について意見を聞いたり、ターミナルケアの事例報告や、入居者の方への関わりを研究発表するなど、内容の濃い会議になっている。1年間の生活の様子をスライドにして見てもらい、さらに事業所の理解を深める工夫をしている。参加された住民からの情報により、確実に地域活動を広げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が、市全域のグループホーム利用者家族へのアンケート調査を行い、結果は担当職員から報告されている。安心支援センター所長から「権利擁護」の講習を受け、職員会議で伝達講習を行うなどサービスの質の向上の為に連携している。生活保護の方の入所などケースに応じて市と個別に相談している。		グループホーム連絡協議会に、市や安心センターの職員や一般の方を案内するという意見もあがっており、単独の事業所としてだけでなく、より大きな力によるグループホームへの啓発に期待している。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、おたよりに写真を同封したり、個別にあてたコメントや次回受診日を書き添えるなどして家族へ近況を伝えている。出納帳のコピーも一緒に送り、毎月確認してもらっている。家族の親睦会を開催して毎日の生活の様子や利用者の表情をスライドで伝えるなど工夫し、家族から喜ばれている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホールに給湯器をつけたりトイレの床材をクッション性のあるものに張替えるなど家族の要望にも前向きに対応している。ホールの床材の張替えやエアコンの調整も申請中である。家族同士で気軽に話し合える機会が欲しいとの意見もあり親睦会も開催された。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームでの馴染みの関係の大切さを法人に理解してもらい、法人内他施設との異動は無いように配慮されている。この1年間、職員の退職や異動はなかった。担当制を導入しており、利用者や家族とより馴染み深い関係を構築している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年「法人全体の目標」「事業所の目標」「個人の目標」をたてて日々のケアに取り組んでいる。法人内の研修や勉強会が活発でパート職員も少しずつ参加されている。年1回の外部研修も勤務として参加出来る体制にある。フィッシュ哲学による取組みで、職員同士が感謝しあい認め合うことで、利用者へのケアに良い影響が与えられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で研究発表会をしたり、管理者同士の連絡会でも情報交換が盛んに行われている。今年度は、すでに3箇所の他事業所と、職員の交換研修を行い、互いの良いところを吸収しあいながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		別の事業所との職員交換研修も決定しており、積極的に取り組んでいる。管理者だけでなく一般職員の親睦会も計画にあがっており、さらなるネットワークを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に施設見学してもらったり、利用前に必ず本人と会って、本人や家族の悩み、不安を十分に聞き取っている。担当介護支援専門員からの情報も得て、意向をとりいれている。隣接のデイサービスから、顔馴染みになって移行されるケースもある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>昔の言葉や、煮物の作り方を教わったり、生活の中で調理、茶碗拭き、掃除など出来ることを手伝って頂きながら、共に過ごす時間を大切にしている。やる気を引き出す声かけや感謝の言葉かけが自然にされている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員はいつも理念を共有し、利用者の意思を一番に考えた援助をしている。馴染みである担当職員を中心に利用者の思いを汲み取り、外出や日々の生活を支援している。日常の記録はフォーカスチャータリング方式を使用し見出しにより把握しやすい工夫をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意見を尊重して、担当職員、リーダーを中心にカンファレンスで話し合い、計画を作成している。必要に応じて医師やPT、STなど関係者の意見を取り入れながら作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回は見直しを行っている。困難なケースの場合は、その都度見直し、ケアプランを立て直している。援助計画は細かくたてられており、日々見直しして、プランにつなげている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空き室を利用した短期入所を行っている。利用者の状況や行事に合わせて職員を増やしたり、勤務時間をずらすなど柔軟な対応をしている。外出や外泊など、出来る限り要望に応じる努力をしている。		運営推進会議に参加された住民から、地域のコミュニティーセンターで行われる「まめなか会」へのお誘いもあり、地域へ出向いて、介護相談を受けるなど更なる地域への還元や、認知症や事業所への理解を深められる機会となることを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や受診先は、本人、家族が決定しているが、多くの利用者が協力病院である法人の病院にかかっている為に、連携し安心した生活を送っている。皮膚科や歯科は往診に来てもらっている。次回受診日は事前におたよりで家族に伝え、情報交換を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療法人であり、経験豊かな看護師と協力病院との密な連携により、チームでターミナルケアの経験を重ね、職員の成長と自信につながっている。ケアの開始にあたっては、医師からのインフォームドコンセントをきちんと行ってもらい、本人、家族の要望に沿った方針を決定している。終末期の入院の回避など利用者や家族の要望に出来る限り対応し、その人らしい最期を迎えられるように支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の傍に寄り添った暖かい声がけをしている。難聴の方へのトイレ誘導の際に大きな声になりやすい事は、全職員が意識して援助してる。おたよりに利用者の写真を使う場合は本人、家族の許可をいただいた上に、背景に名前が写っている時には吹きだしで隠すなど十分配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いを感じながら、いくつかの選択肢を与えて、自分で選んでいただけるように心がけている。利用者のペースに合わせた支援がなされており、日常の外出も利用者の希望が尊重されている。字の書ける人には年賀状を出される支援も考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人内全て業者委託されているが、昼ご飯だけは自分達で炊き、副菜も1品は必ず利用者と一緒に作り、片付けもしている。また、月に1度は自分達で献立を決め、買い物や調理全てを行っており、出来る範囲で家庭に近づける努力をしている。食後のデザートや皮むきも、もっぱら利用者の仕事になっている。おやつも煮しめや手作りが多く、利用者に好評である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は眺めが良い場所にあり、広くて明るい。夕方入浴や毎日の入浴など利用者の意思を尊重したうえで、支援を工夫している。気のあった利用者同士と一緒に入浴されることもあった。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の行事が多く取り入れられ、利用者の心を和ませている。炊事や掃除、洗濯たたみ、畑仕事など日常生活の中で各々の特技を生かしている。ボランティア活動としてバス停掃除や、入院患者さんに使ってもらう為に、干した茶葉をガーゼで包んだハンドロールを作って一緒に病院に届けるなど多くの方に喜んで頂いている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お墓参りや散歩、買い物、思い出の地(出生地や新婚旅行の地)巡りや、外食など、利用者のその日の状況や希望に合わせた外出支援がなされている。他に、誕生日の特別外出や年1度の遠足もあり、家族同士の交流も出来たと喜ばれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠する事はない。鍵をかけることが身体拘束になることを全職員が理解している。徘徊癖のある方がおられる時のみ玄関にチャイムが鳴るシステムを使っている。利用者の気がすむまで職員がそっと寄り添い同行している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の法人他施設からの応援体制も整っている。年2回、夜間想定を含め避難訓練をしている。地元の消防団にも参加してもらい総評を頂き、参考にしている。法人の別施設にまとめてある備蓄についても改めて検討し、最低限の備蓄を事業所内に置くようにした。緊急連絡装置が設置されており火災発生場所がわかる様になっている。		地震や風水害など、災害時の対応や避難場所の確認なども地域を含め話し合ってもらいたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内栄養士と業者で決定した献立を、利用者の状態や嗜好に合わせて調整している。普通の食事でも高齢者向きで柔らかく食べやすい大きさに調理されているが、嚥下障害がある方にはゼリー状にするなどさらに工夫している。水分出納やセンナ茶で排泄コントロールにも気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	懐かしさを感じさせる家具や小物、季節の花や絵が飾られ居心地の良い空間になっている。ホールから見える場所にトマトを植えて成長を楽しんだり、天気の良い日はベランダでの日光浴やお茶会も利用者の気持ちを和ませている。換気やポータブルトイレの更新など臭いには十分気を配っている。住みついた猫を皆で可愛がっており利用者の心を癒している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、出来るだけ使い慣れた馴染みの品を持って来ていただくように伝えており、各入居者の個性を感じさせる部屋になっている。冬はコタツにカーペット、夏はテーブルにゴザを敷くなど季節によって模様替えもしている。		